

巴豆

の紅葉の艶なるをいふなるべし、楓を以霜葉の總稱とする事、本邦にて木々の彩をさして紅葉といふをかへでの一名とするがごとし、その形状は本草啓蒙に委しく辨じたり、尤烏白に葡萄白、鷹爪白の二種ある事、群芳譜に見えたれども、啓蒙には辨せず、或人曰、今本邦に渡りしは葡萄白なりといへり、

〔本草一家言〕^三烏白 肥前佐賀郷名琉球波世、近來自西土將來于長崎、土人搾油及製蠟、故名蠟木、又稱加牟氏羅、木葉似加津羅、而圓扁結實、攢簇數子似梧桐子、往昔投化客陳元贊以山漆充烏白、謬妄之說也、

〔和漢三才圖會^{八十三}〕^三巴豆^{はづ} 巴菽 剛子 老陽子

本綱巴豆本出巴蜀^{巴蜀今四川也}而形如菽、豆故名之、今嘉州眉州戎州皆有之、木高一二丈、葉如櫻桃、而厚大、初生青色、後漸黃赤、至十二月葉漸稠、二月復漸生、四月舊葉落盡、新葉齊生、即花發成穗、微黃色、五月結實、作房、生青、至八月熟而黃、漸自落、一房有二瓣、一瓣乙子、或三子、子仍有殼、用之去殼、似大風子殼、而脆、薄子及仁皆似海松子、其緊小者是雌、有稜及兩頭尖者是雄、雄者峻利、雌者稍緩也、

戎州之巴豆、殼上有縱文、隱起如線、一道至兩三道、呼爲金線巴豆、最爲上等、他處亦稀有、

巴豆^{辛溫有毒} 若急治爲水穀道路之劑、去皮心膜、油可生用、若緩治爲消堅磨積之劑、炒去烟、令紫黑色、

可熟用^{生則猛熟即緩} 斬關奪門之將、無胃中寒積者不可輕用、

又云、雖可以通腸之藥、可以止瀉、世所不知也、^{能吐能下能止能行}、反牽牛子^{中巴豆毒者用冷水黃連汁大豆汁、即解之}、

〔重修本草綱目啓蒙^{二十四}〕巴豆 一名草兵^{輟耕錄} 江子^{壽世保元}

和產ナシ、近年薩州ニ來ル、葉ノ形シラキノ葉ニ似テ短シ、實ハ舶來多シテ偽物ナシ、外殼白、莢殼ニ似テ微長、内ニ二三子アリ、子ハ豆ノ形ニ似テ長シ、藥ニハ皮ヲ去リ仁ヲ用ユ、仁中ニ芽アリ、コレヲ心ト云、集解ニ去心皮ト云心ハ、人ヲ吐スル故ナリ、コノ仁ヲ研リツブシ紙ニ挾ミ、壓シテ油